本年度で閉校 田代小中学校　22日、最後の運動会

晴れ舞台へ地域一丸

保護者、住民ら 校庭整備

八戸

階上

八戸市と階上町に学区がまたがる東北地方唯一の学校組合立校で、本年度いっぱいで閉校する田代小中学校（同市南郷、本間孝浩校長）最後の運動会が22日、同校校庭で開かれる。これに合わせ15日、保護者、学区内の住民ら約１００人が校庭整備に参加した。寂しさをこらえながら、子どもたちの晴れ舞台を整えた。

（新村菜穂）

校舎を背景に記念写真に納まる田代小中学校の児童生徒と保護者、地域住民ら

学区内の交流「続けたい」

田代小中学校の児童・生徒は現在7人。ＰＴＡには保護者に加え、学区内の住民全戸約１６０世帯が準会員として会費を納め、学校行事に協力している。運動会前の環境整備も恒例で、２市町の住民同士が交流する機会になっているという。

運動会当日は学区民運動会を併催し、住民も児童・生徒と一緒に競技を行う。階上側から通う中学３年生の内城沙結希さんは「整備をしてくれる皆さんに感謝しています。３年生は１人なので、かっこいいところを見せたい」と話した。

15日は、学校の記念誌に載せるため参加者全員で写真を撮ったあと、１時間半ほどで校庭の草を刈り終え、子どもたちとともに学校前道路沿いの通称「ひまわりの道」にヒマワリの種を植え、花壇を整えた。

学区内には2、3世代にわたり同校卒という住民も少なくない。「地区の学校、自分が育った学校だから、協力するのは当然」と八戸側・番屋自治会の鮫ノ口芳光会長(59)。同じく八戸側の古里自治会の金谷喜一会長(66)は「自分が通っていた頃は子どもたちの数が多く、運動会は盛大なお祭りのようだった。学校がなくなるなんて、想像がつかない」と目を伏せた。

市町をまたいだ交流が続いたのは、学校があったからこそ―と住民たちは口をそろえる。今後の交流の方針や、校舎の活用方法などは、学区住民も参加する「閉校・統合準備委員会」で話し合っていく。鮫ノ口会長は「なんとか交流が続くよう盛り立てていきたい」と話した。

田代小は１９２２年創立で、47年に田代中を併設。現在は小学生２人、中学生５人が在籍している。